

■ スポーツ拠点施設整備基本計画(概要)

◆スポーツ拠点施設整備の目指すべき姿

- スポーツは、多くの県民が多様な親しみ方(「する」「観る」「支える」「交流する」「感動する」「育む」等)ができるとともに、賑わいや交流の創出等の多様な役割を担う。
- スポーツ拠点施設整備により、スポーツ振興を更に推進し、「健康長寿の奈良県」、「持続可能な地域社会」を実現する。

◆スポーツ拠点施設整備の基本コンセプト

『スポーツを通じた個人や社会の持続可能な幸福の創出』

“子どもから高齢者まで、障害のある人もない人も、多くの県民が様々なスポーツや活動により快適に取り組める環境づくり”

◆スポーツ拠点整備基本方針

【活用方針①】
誰もが、いつでも、どこでも
スポーツに親しめる環境づくり

- ・子どもから高齢者まで、多くの県民が生涯にわたりスポーツに親しむ環境として活用
- ・子どもがスポーツを通じて、健全な心と身体を培う場所として活用
- ・県民がスポーツを通じて、地域コミュニティへ参画し、社会的なつながりを築く場所として活用

【活用方針②】
県民スポーツの「拠点」としての役割の継承

- ・県民スポーツの「拠点」として、各種競技大会の主会場として引き続き活用
- ・県有の武道施設としての機能強化を図り、武道競技の「拠点」として活用

【活用方針③】
プロスポーツ等による地域の盛上げ

- ・県民がプロスポーツ等を通じて盛り上がり、地域の一体感を醸成する場所として活用
- ・プロスポーツ等を観ることで人々が夢や感動、興奮できる場所として活用

【活用方針④】
地域の多彩な賑わいや交流の創出

- ・全国レベルの競技大会や県民の文化活動、地域の歴史資源を活かしたイベント等の開催に活用
- ・地域の特性を活かした賑わいや交流、経済効果を広く波及する、地域づくりの拠点として活用

【活用方針⑤】
持続可能な運営と社会基盤の整備

- ・将来にわたって県民にスポーツができる環境を提供し続ける場所として活用
- ・災害時に広域防災拠点（北部中核拠点）として活用

◆橿原公苑・アリーナの整備方針

【橿原公苑整備】

- ・既存施設の改修等により多くの県民が快適にスポーツに取り組むことができる環境を整備

【アリーナ整備】

- ・多種多様なスポーツに取り組むことができる快適な施設整備

【整備全体】

- ・ユニバーサルデザイン等に基づいた誰もが快適に利用できる施設整備

【橿原公苑整備】

- ・各種スポーツの県大会の開催に適した施設整備
- ・多様な武道に対応した競技環境を確保

【アリーナ整備】

- ・国民スポーツ大会をはじめとした様々な大規模スポーツ大会が開催可能な施設規模を確保

【橿原公苑整備】

- ・プロ野球、社会人野球、大学野球等に対応した施設整備

【アリーナ整備】

- ・プロスポーツ（Bリーグ、SVリーグ）の基準に適合した施設整備

【橿原公苑整備】

- ・武道場、新弓道場の整備による大規模大会の開催など新たなニーズを創出

【アリーナ整備】

- ・新駅整備との相乗効果や民間活力を活用した新たな賑わいを生む施設整備
- ・スポーツ以外でも多様な利用が可能な施設整備
- ・県民の文化活動や各種イベントの開催や多様なプログラムを通じた人々が集い交流する場を提供

【橿原公苑整備】

- ・持続可能な公苑運営に向けた施設整備

【アリーナ整備】

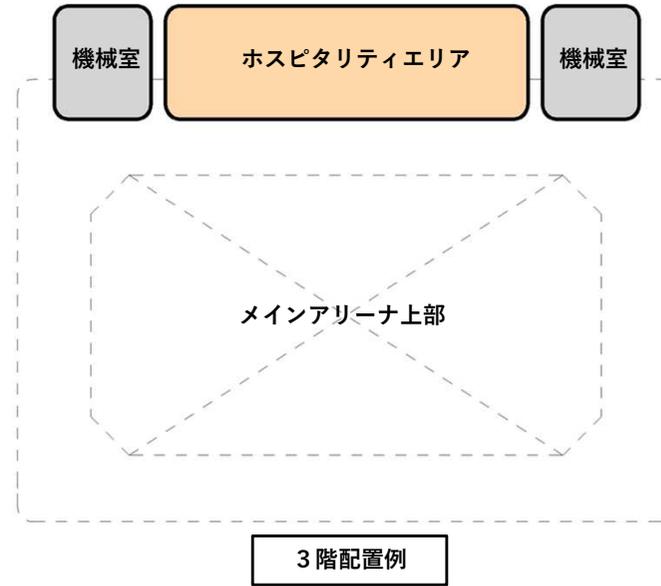
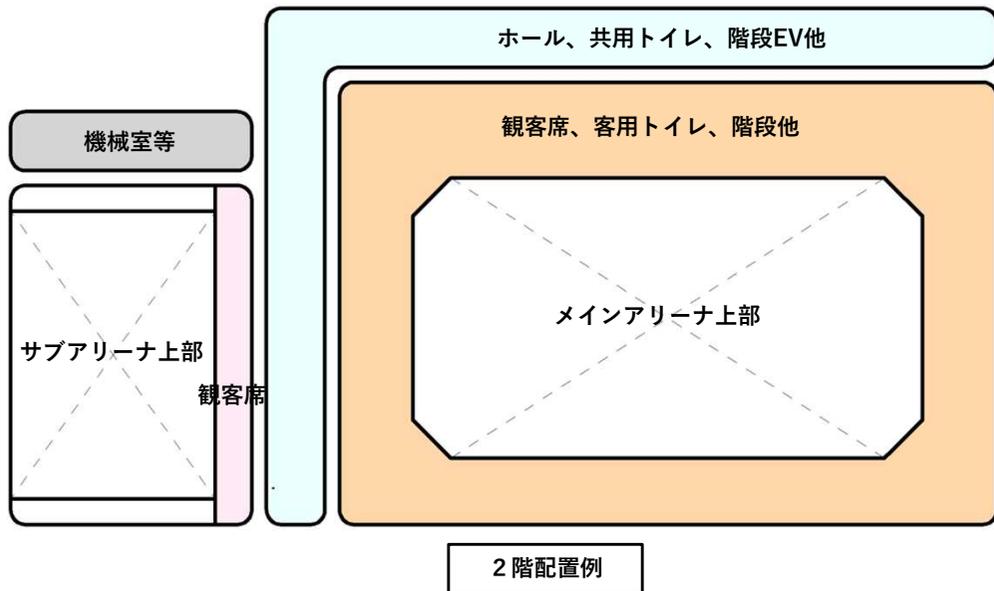
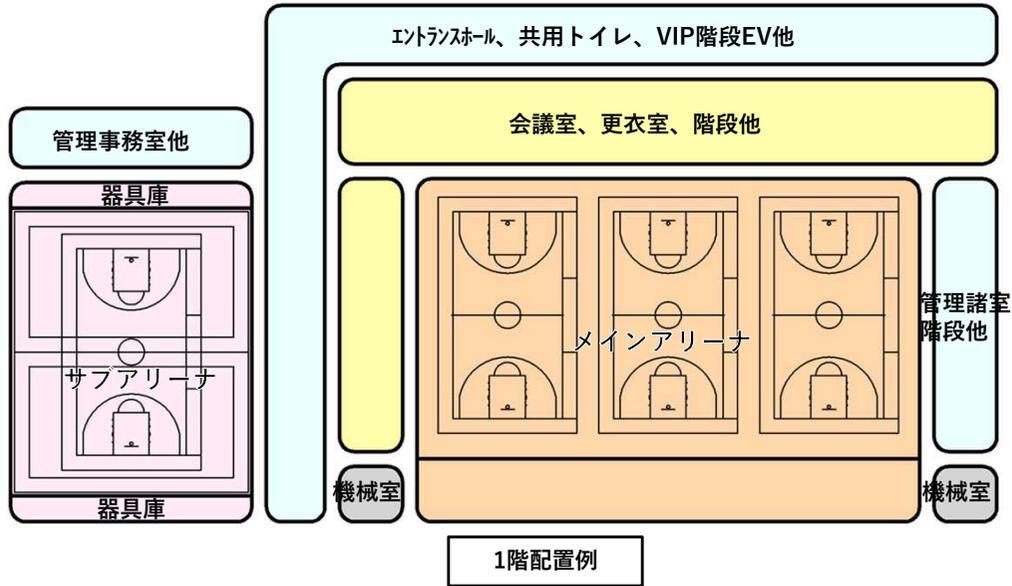
- ・民間のノウハウを最大限活用し、持続可能なアリーナ運営に向けた施設整備

【整備全体】

- ・災害応急活動の実施が可能な施設整備

■ スポーツ拠点施設整備基本計画(概要)

◆アリーナの規模・機能について



- 【メインアリーナ】**
- | | | |
|----|------------|-------|
| 1階 | 仮設席 | 500席 |
| 1階 | 移動観覧席 | 1600席 |
| 2階 | 固定席 | 2700席 |
| 2階 | 車椅子席・介助席 | 50席 |
| 3階 | 固定席（VIP関係） | 200席 |
| 合計 | | 5050席 |
- 【サブアリーナ】**
- | | | |
|----|------------|------|
| 2階 | スタンド席（固定席） | 300席 |
|----|------------|------|
- 【凡例】**
- メインアリーナ
 - サブアリーナ
 - 付属関連施設
 - 管理・共用
 - 機械室他

主な諸室		参考面積	計画概要
メインアリーナ	競技床	2,600㎡	国スポ大会基準のバスケットボールコート3面以上を確保
	観客席	2,700㎡	メインアリーナ全体で5050席以上（固定席、可動席、仮設席の合計）を確保
	ホスピタリティエリア	650㎡	来賓室及びプロスポーツ等のVIP関係諸室等を確保
	器具庫・放送・音響・映像等	600㎡	メインアリーナで使用するスポーツ用品等が収納できる広さを確保
サブアリーナ	競技床	1,250㎡	公式競技規格のバスケットコート1面及び練習用の非公式競技規格2面を確保
	観客席	300㎡	固定席として300席を確保
	器具庫	250㎡	サブアリーナで使用するスポーツ用品等が収納できる広さを確保
共用部	トイレ・ベビールーム等	700㎡	各種プロリーグ基準を満たす基数を確保
	更衣室・シャワー室等	350㎡	大会同時開催やプロスポーツ利用が可能な室数を確保
	会議室・控室等	600㎡	多様な会議や研修に利用できるように規模や室数を確保
	管理事務室、機械室、通路等	4,850㎡	エントランスホール、施設運営に必要な事務室等、各種機械室、廊下を適宜計画
合計		約15,000㎡	

◆アリーナの事業手法について

整備運営をPFI事業（BTO方式）とすることにより、施設の維持管理・運営の企画を一定程度民間に委ね、経営上のノウハウや技術的能力を活用できる。

【項目】	【従来型】	【PFI(BTO方式)】
工事費	約170億円	約155億円

※次の項目については別途計上が必要

維持管理費、インフラ関係の整備費用、・建築に付帯しない土木外構整備費用、調査・設計・各種申請、工事監理費用、備品調達費用 等

※計画は基本計画時点の検討状況であり、今後の検討や設計段階で変更します。